

巻頭言



## 補綴歯科のアウトカム

### Outcome of Prosthodontics

北海道大学大学院歯学研究院口腔医学部門口腔機能学分野

口腔機能補綴学教室 横山敦郎

アウトカムということばが広く用いられるようになってから十数年以上が経過している。アウトカムとは、本質的な成果を指す用語であり、例えば研究に関しては、論文の数などではなく、実社会にどのような影響を与えたかということと解釈される。教育においては、平成 28 年度に改訂された歯学教育モデル・コア・カリキュラムには、いわゆるプロセス基盤型教育からアウトカム基盤型教育への移行が明確に記載されている。

医療においてアウトカムはどのように考えられてきたのであろうか？ 医療のアウトカムは、本質的には、健康・長寿や QOL の保持・向上であり、アウトカム指標としては、死亡率、(疾病からの) 回復率、患者満足度などが提唱されている<sup>1)</sup>。歯科医療もまた医療の一領域であることから、健康・長寿や QOL の保持・向上が補綴歯科医療のアウトカムであることは言をまたない。また、補綴歯科医療が関係する「栄養(食・口腔機能)」は、高齢者におけるフレイルの予防と進行の抑制に寄与し、さらには、健康・長寿に繋がるものと考えられ<sup>2)</sup>、本学会が学会として参加している大規模フィールド研究においても、歯科医療、特に補綴歯科が関係する歯科医療が、生命予後に影響を与えるという結果が得られている(本年 6 月開催の定時総会の講演会にて報告を予定)。

一方で、補綴歯科診療の対象は、若年から老年までと広く、クラウン・ブリッジ、義歯、インプラントによる歯の欠損を対象とする補綴治療から、顎顔面補綴、顎機能障害、摂食嚥下障害など、その治療内容も多岐にわたる。さらに、これらの臨床は、非常に多くの分野の基礎研究に支えられている。市川理事長は、「わが国の歯科補綴学の特徴として多様性と階層性」をあげられ、「学会にもこの多様性と階層性は必要であり、それが学会の強靱性につながり、新たなイノベーションの源である」と述べられているが、同時に「多様性と階層性の許容がその専門性、特殊性の喪失につながり、本家本元の意義、価値が薄らいでしまう危険を内包する」と指摘されている<sup>3)</sup>。この多様性と特殊性・専門性の相反は、補綴歯科の専門性、専門医制度、さらには学会の将来にも関係していくと思われる。補綴歯科は、特殊性・専門性を保持しつつ、127 回ならびに本年の 128 回学術大会のメインテーマである新たな分野へ「挑戦」し、「進化」することが求められている。

では、本学会のアウトカムは何であろうか？ 本学会の定款には「この法人は、歯科補綴学に関する学理およびその応用についての研究発表、知識の交換、会員相互および内外の関連学会との連携協力等を行うことにより、歯科補綴学の進歩普及を図るとともにわが国の学術の発展に寄与し、もって国民の健康福祉に貢献することである。」と定められている。本学会は、会員の皆様が優れた研究を行い、論文として公表することに加え、Journal of Prosthodontic Research という歯科領域においては世界屈指の雑誌を刊行することにより、わが国の学術の発展に寄与してきた。また、研究のアウトカムは論文の数ではなく、社会にどのような影響を与えたかということであると冒頭に述べたが、本学会は新たな検査方法や治療方法を構築するとともに多くの指針(ガイドライン)を策定し、さらには、有床義歯咀嚼機能検査や CAD/CAM 冠をはじめと多くの成果を保険医療として導入してきた。まさに社会に大きな影響を与え、国民の健康福祉に貢献しているといえるが、残念ながら「補綴」と

ということばは、国民の間に十分に周知されているとは言い難く、日本補綴歯科学会としてのアウトカムを広く国民に積極的にアピールする必要がある、それが本学会のさらなる発展に繋がるものと思われる。

最後に、総務担当理事として1年半、市川理事長のもとで本学会の会務を担当させていただいた。当初は、事務局員の交代時期と重なり、会員の皆様にはご迷惑をおかけしたにもかかわらず、支えていただきましたこと深く感謝申し上げたい。

- 1) 例えば <https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r9852000001ywey-att/2r9852000001ywla.pdf>
- 2) 飯島勝矢. 虚弱・サルコペニア予防における医科歯科連携の重要性：～新概念『オーラル・フレイル』から高齢者の食力の維持・向上を目指す～. 日補綴会誌 2015 ; 7 : 92-101.
- 3) 市川哲雄. 歯科を支え、創る補綴の矜持—理事長就任にあたって—. 日補綴会誌 2017 ; 9 : 159-162.